

県内中小企業(製造業)景況動向

令和2年1月～3月期
業況急下降 来期はリーマンショック時並みの悪化予測

本会調査結果概要



業種別景況動向

食料品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲19.1	▲26.0	▲65.1	▲58.4

同期比の売上高DI、収益性DIとともに▲65.1で、両方を合せたDI平均値は▲65.1となり「雨」模様に転じている。来期見通しは6.7ポイント上昇して▲58.4となるものの「雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高DIは▲67.4、収益性DIは▲68.5となった。

また、雇用人員判断DIは「不足」・「過剰」とともに18.4で0.0、設備操業率DIは▲41.6、設備投資実施率は20.9%となった。

繊維・同製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲48.2	▲34.5	▲34.6	▲38.5

同期比の売上高DI、収益性DIとともに▲34.6で、両方を合せたDI平均値は▲34.6となり「雨」模様が続いている。来期見通しは3.9ポイント下降して▲38.5となり「雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高DIは▲23.1、収益性DIは▲31.2となった。

また、雇用人員判断DIは12.5、設備操業率DIは▲43.8、設備投資実施率は7.7%となった。

売上高と収益性を合せたDI平均値(同期比)については▲38.5となり、前回調査(元年10～12月期)の▲27.1から11.4ポイント下降している。来期見通しにおいては15.9のポイント下降して▲54.4となつている。これは、リーマンショック発生直後(平成20年10～12月期)▲54.2と同程度の水準である。

売上高DI(同期比)については▲36.0となり、前回調査から12.8ポイント下降している。来期見通しにおいては19.9のポイント下降して▲40.0となり、前回調査から9.9

ポイント下降している。来期見通しにおいては11.9のポイント下降して▲51.9となつてる。

業況DI(同期比)については▲36.6となり、前回調査から10.6ポイント下降している。来期見通しにおいては17.8のポイント下降して▲54.4となつている。

原材料価格DI(前期比)については18.4となり、前回調査から12.6ポイント下降している。販売価格DI(前期比)については▲3.2となり、前回調査から8.3ポイント下降している。

設備投資実施率DI(前期比)については▲3.2となり、前回調査から8.3ポイント下降している。設備操業率DI(前期比)については▲31.6となり、前回調査から19.4ポイント下降している。

金融機関の態度DI(前期比)については▲3.4となり、前回調査から4.7ポイント下降している。設備投資実施率については24.0%となり、前回調査から4.4ポイント下降している。業種別で高い実施率となつたのは「金属・同製品(35.3%)」、「繊維・土石製品(33.3%)」で、目的別では「品質向上」、「増産」となっている。また、来期の設備投資計画率については23.2%となつた。

概況

紙・加工品

7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲34.7	▲50.0	▲68.8	▲84.4

同期比の売上高D I、収益性D Iとともに▲68.8で、両方を合せたD I平均値は▲68.8となり「雨」模様が続いている。来期見通しは15.6ポイント下降して▲84.4となり「雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲68.8、収益性D Iは▲62.5となった。

また、雇用人員判断D Iは▲12.5、設備操業率D Iは▲68.8、設備投資実施率は6.3%となった。

木材・木製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲8.3	▲18.2	▲22.2	▲55.6

同期比の売上高D I、収益性D Iとともに▲22.2で、両方を合せたD I平均値は▲22.2となり「小雨」模様が続いている。来期見通しは33.4ポイントの大幅下降で▲55.6となり「雨」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲22.2、収益性D Iは▲11.1となった。

また、雇用人員判断D Iは22.2、設備操業率D Iは▲11.1、設備投資実施率は0.0%となった。

金属・同製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲15.3	▲32.9	▲47.1	▲58.9

同期比の売上高D Iは▲50.0、収益性D Iは▲44.1で、両方を合せたD I平均値は▲47.1となり「雨」模様が続いている。来期見通しは11.8ポイント下降して▲58.9となり「雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲61.8、収益性D Iは▲48.1となった。

また、雇用人員判断D Iは「不足」・「過剰」とともに11.5で0.0、設備操業率D Iは▲37.0、設備投資実施率は35.3%となった。

窯業・土石製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲6.9	▲4.2	▲4.0	▲33.3

同期比の売上高D Iは▲7.9、収益性D Iは「好転」・「悪化」とともに25.6で0.0、両方を合せたD I平均値は▲4.0となり「曇」模様が続いている。来期見通しは29.3ポイントの大幅下降で▲33.3となり「雨」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲12.8、収益性D Iは▲14.7となった。

また、雇用人員判断D Iは29.4、設備操業率D Iは▲5.9、設備投資実施率は33.3%となった。

プラスチック製品

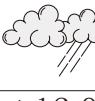
7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲6.7	▲18.2	▲25.0	▲60.8

同期比の売上高D Iは▲14.3、収益性D Iは▲35.7で、両方を合せたD I平均値は▲25.0となり「小雨」模様が続いている。来期見通しは35.8ポイントの大幅下降で▲60.8となり「雨」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲28.6、収益性D Iは▲23.1となった。

また、雇用人員判断D Iは▲7.7、設備操業率D Iは▲15.4、設備投資実施率は28.6%となった。

機械・機器

7-9	10-12	1-3	来期見通
			
▲16.0	▲35.3	▲36.5	▲59.6

同期比の売上高D Iは▲28.1、収益性D Iは▲44.9で、両方を合せたD I平均値は▲36.5となり「雨」模様が続いている。来期見通しは23.1ポイントの大幅下降で▲59.6となり「雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲27.7、収益性D Iは▲40.0となった。

また、雇用人員判断D Iは1.8、設備操業率D Iは▲30.9、設備投資実施率は27.7%となった。